

③本多光太郎 ☆小学校三年 一学期実施

主題 つとめてやむな A(5) 努力と強い意志

一 醸成したいおかざきの心

自分の座右の銘を心に刻み研究に取り組んだ岡崎の先人から学ぶ、強い意志

二 教材 「てつの人」

『明るい人生中学一年』（愛知県教育振興会） 参照

「鼻たれ光太」と呼ばれ、勉強が苦手で学校嫌いであった光太郎。しかし、恩師「寺田松次郎先生」との出会いにより大きな転機が訪れます。田先生からの励ましの言葉「つとめてやむな」を胸に、強い意志で勉強を続けるようになった光太郎は、ぐんぐん成績を伸ばしていきます。そして、東京に出た光太郎は「K・S鋼」という強力な磁石を発明し「鉄の人」と呼ばれる博士になりました。

三 本時のねらい

- (1) 勉強嫌いだった光太郎が「つとめてやむな」の言葉を大切にし、勉学に励み成績を伸ばしていったことに気付かせる。
- (2) 自分の目標に向かい、強い意志をもとうとする心情を養う。

四 発問例

発問① 「一番心が動かされた場面はどこですか。」

- ・遊んでいる方が楽しいな
- ・学校の勉強なんて嫌い
- ・学校に行っても馬鹿にされるだけ

発問② 「光太郎は、どんな気持ちで勉強に励み続けたのだろうか。」

(中心)

- ・本当に勉強ができるようになるのかな
- ・ちよつと頑張ってみようかな
- ・頑張ることは大切なのかな

補助発問 「どうして光太郎は『こんなぼくでも、できますか』と

聞いたのでしょうか。」

- ・先生の言うことが信じられなかったから
- ・自分は大げな人間だと思っていたから
- ・今まで勉強が苦手だったから

発問③ 「光太郎が努力し続けて立派な博士になったことについて

どう思うか。」

- ・自分が決めた目標に向かって努力する光太郎はすごい。
- ・あきらめずに努力すれば、自分の夢が叶うかもしれないな。
- ・光太郎みたいに何か発明したい。
- ・苦手なことにも逃げずに、挑戦したい。

(自覚) 「光太郎の姿から、どんなことを学びましたか。」

- ・「つとめてやむな」の言葉のように、頑張ることを続けていきたい

